厚生労働省
令和３年度

女性医療職等の働き方支援事業
実施報告書

OITA UNIVERSITY
大分大学医学部附属病院　女性医療人キャリア支援センター
Career Path Support Center for Medical Staff

厚生労働省　令和３年度
女性医療職等の働き方支援事業実施報告書

目 次 contents

ごあいさつ …… 1

1. 実施体制 …… 5

2. 実施計画 …… 5

3. 活動実績

(1) 職場理解に係る取り組み …… 8

(2) 相談窓口等に係る取り組み …… 13

(3) 勤務体制に係る取り組み …… 16

(4) 診療体制に係る取り組み …… 19

(5) 保育に係る取り組み …… 21

(6) 復職支援に係る取り組み …… 26

(7) その他の取り組み …… 30

4. 女性医療人キャリア支援センター概要と運営体制 …… 40

病院長ごあいさつ

大分大学医学部附属病院長
三股　浩光
Hiromitsu Mimata

大分大学医学部附属病院は、県内で唯一の大学病院であり、特定機能病院として県民の皆様に安心で安全な高度先進医療を提供する役割を担っています。そのため地域医療に貢献できる高い意識を持つ医療人の育成は不可欠であり、中でも女性医療人のキャリアを支援することは大変重要なことと考えております。

本院では平成26年度より、女性医療人キャリア支援センターを設置し、女性医療人のキャリア継続支援のための環境整備を行ってまいりました。平成30年度に厚生労働省　女性医師等キャリア支援モデル構築事業の採択を受け、ライフイベントに係る女性医師をとりまく課題を抽出し、解決に向けて取り組み、女性医師のキャリア支援の取組に一定の成果を得ることができましたが、意識改革などはその後も継続していく必要がありました。

そして、昨年度および今年度と厚生労働省　女性医療職等の働き方改革支援事業に採択され、医師・看護師・薬剤師・メディカルスタッフを対象として、さらに女性医療人に限らず男性医療人も含め、病院全体での働き方改革と環境整備、意識啓発に取り組み、地域の基幹病院として、地域医療における人材確保・人材育成に大きく寄与する支援を行ってまいりました。今まさに働き方改革が急務となり、今後ますます医療人全体での働き方改革に向けた取組が必要となってきます。

これからも、これまでの取組を活かし、プロフェッショナルな医療人が活躍できるよう環境整備を継続し、地域に根差した病院として、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。どうぞご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

センター長ごあいさつ

大分大学医学部附属病院　女性医療人キャリアセンター
センター長
医学生物学教授

松浦 恵子
Keiko Matsuura

女性医療人キャリア支援センターは医療人が安心して仕事を継続あるいは復職できるための支援や、キャリアアップを目指す取組を行っています。昨年度よりセンター長として、2人の副センター長やコーディネーターとともに活動しています。

今年度も厚生労働省　令和３年度　女性医療職等の働き方支援事業を推進いたしました。リーダー研修では「アンコンシャス･バイアス」について学内でリーダー向けに話をしました。中田副センター長を中心とした男性医療人パパの会（イクメンパパの会（Penguins））では、オンラインで講師の滝村先生のご指導のもと、料理を通じて家族で楽しむことの大切さを学びました。医学教育センター　中川教授、山本准教授のご指導のもと、医学部生に対する「キャリアに関する問題解決実践型授業」が対面で実施されました。また、立山副センター長を中心として、女性医師交流会やキャリア相談会も対面で実施されました。コーディネーターを中心として相談業務も行われました。まだまだコロナ禍ではありましたが、少しずつ対面での取組が増えてきたことは、嬉しい兆しでした。参加してくださった医療人の方々、交流会等に協力してくださった医療人の方々に感謝申し上げます。

これからさらに、次世代を含め、女性男性関わらず一人でも多くの医療人が自分の目指すキャリアを継続できるように、また地域医療のお役に立てるよう努めていく所存です。これからも女性医療人キャリア支援センターへのご支援、ご理解をいただけますようお願いいたします。

副センター長ごあいさつ

女性医療人キャリア支援センター
副センター長
腎臓内科助教

中田　健
Takeshi Nakata

事業報告書をご覧いただきありがとうございます。女性医療人キャリア支援センター　副センター長　中田健と申します。

本年度も、昨年に引き続き、多くの皆様がコロナウイルスの影響を引き続き受けた１年だったのではないかと思います。

オンライン学会、WEB 会議は既に当たり前になり、大分のような地方にいてもいろいろな学会や勉強会などに参加できるようになったことは、誰もが働きやすい社会を形成するうえで、非常に大きな武器となりうることを実感する今日この頃です。

そして今、医療の分野の最も大きな変革として 2024 年から法律で定められる長時間労働を避けるための仕組みの導入が、いよいよ間近に迫ってきました。現在大分大学医学部附属病院でもタスクシフトなど、それに向けた様々な取り組みが行われています。

東京パラリンピックで、多くのパラアスリートが、様々な姿でチャレンジする姿は、多くの人の心を打ち、ある意味オリンピックよりも見るものを引き付ける魅力を感じました。子育て、家事・介護など多くのマルチタスクをこなす女性医療人（男性医療人）が、働きやすい労働体制を整えることは、上記長時間労働の解決になるばかりでなく、様々な病気を持つ方やご家族のケアに対してもいろいろな視点をもたらし、患者さんとそのご家族にとっても、良い環境を提供できる病院・職場に変わっていくのではないかと考えております。

附属病院でも、来年度からはすべての医師がスマートフォン端末を持つことになっており、この様な IT 化で当直業務の軽減やこれらの端末に常に繋がることによる精神的負担などのバランスを考えながら、皆様にとって少しでも働きやすく、また利用する患者さんご家族にとっても満足な医療を提供できる病院になるよう女性医療人キャリア支援センターとして貢献できたらと考えております。

引き続き皆様のより一層のご支援何卒よろしくお願い申し上げます。

副センター長ごあいさつ

女性医療人キャリア支援センター
副センター長
耳鼻咽喉科・頭頸部外科

立山 香織
Kaori Tateyama

2020年度より中田先生と一緒に副センター長を務めております、2003年卒の耳鼻咽喉科・頭頸部外科医、立山香織です。

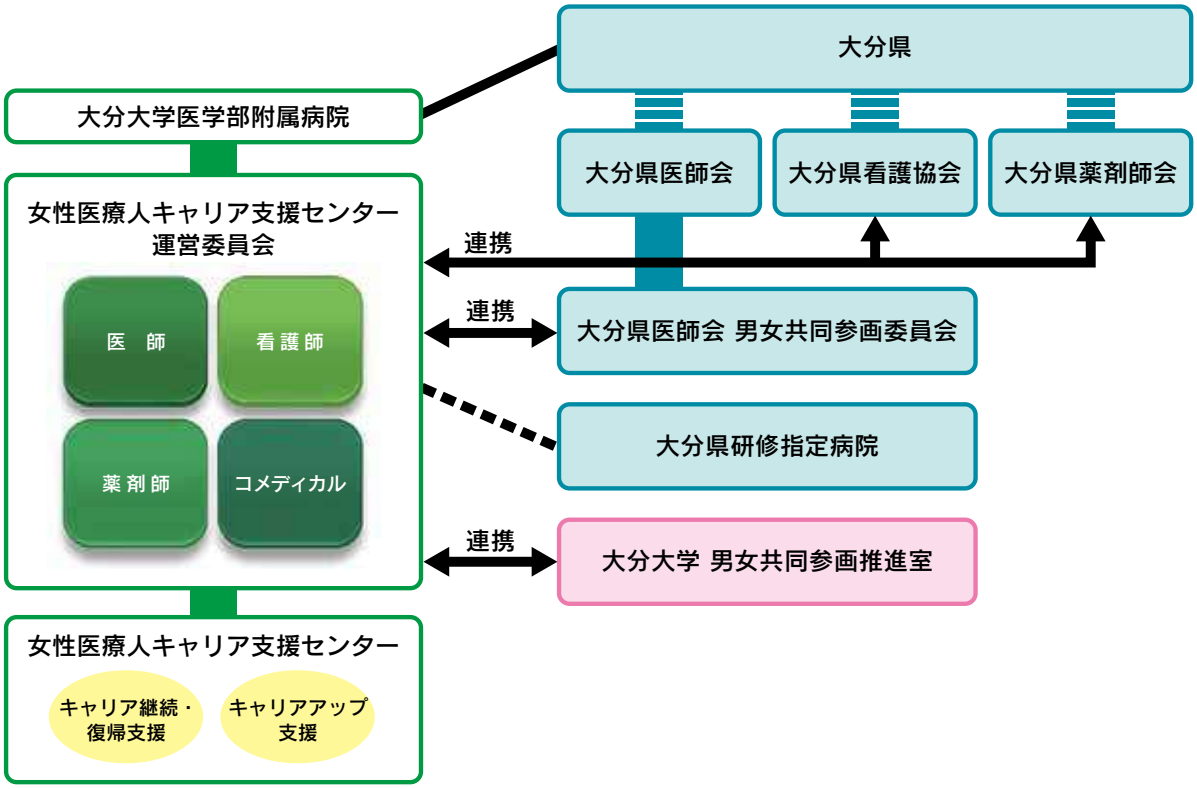
医学部入学と同時に医師になることはほぼ決定します。しかし、キャリア選択は終わったわけではありません。研修病院の選択、診療科の選択、研究分野の選択、臨床での専門分野の選択に留まらず、留学、開業といくつもの選択肢が続きます。さらに、これに出産、子育て、親のことといったライフイベント関連事象が絡むと、悩みが複雑化します。これは女性だけの悩みではありません。

これまで、本センターでの活動を通して、様々な診療科や世代の考え方、働き方を垣間見ることができました。自分自身、「キャリアとワークライフバランス」の意味を考えながら、過去に歩んできたライフステージとキャリアの道を振り返り、その先を行く先輩の姿を見ることができました。

昨年度から様々な活動が、オンラインに置き換わり、初の試みのイベント形式が増えましたが、オンラインやオンデマンドを取り入れることは、メリットも沢山ありました。一方で、やはり対面でお話しすることの楽しさや、重要性も感じました。

女性医療人キャリア支援センターは、どのような状況になっても変わらず、医療に関わるすべての女性、男性へ、ライフステージとキャリアに関する悩みや情報の共有、制度の提案を行える場を提供していきたいと思います。

1 実施体制



2 実施計画

令和３年度女性医療職等の働き方支援事業実施団体公募要項の内容を踏まえ、以下の通り実施計画を策定しました。

１．職場理解に係る取り組み

①リーダー研修の開催

②男性医療人パパの会（Penguins）の開催

２．相談窓口等に係る取り組み

①コーディネーターによる研修・復職支援

②キャリア相談窓口の開設

３．勤務体制に係る取り組み

女性医師等採用サポートコースを設定

４．診療体制に係る取り組み

復職支援プログラムの拡充

５．保育に係る取り組み

①院内保育園及び病児保育の情報提供

②マタニティ白衣・スクラブの貸出し

６．復職支援に係る取り組み

交流会等を通じた女性医療人の両立支援

７．その他の取り組み

①キャリアパス相談会

②キャリア教育

③女性医療人キャリア支援センター News Letter の発行

女性医療職等の働き方支援事業実施計画

● 1. 職場理解に係る取り組み

１－①リーダー研修の開催

～アンコンシャス・バイアスについて意識啓発～

職場の上司を対象に現場における課題を共有し職場の理解の促進に向けた研修セミナーを開催する。職場の上司のアンコンシャス・バイアスに関する意識啓発は、女性医療人だけでなく、育児・介護等に関わる男性医療人の両立支援にも非常に重要である。

１－②男性医療人パパの会（Penguins）の開催

平成 27 年度よりスタートしたイクメンパパの会（通称 Penguins）では、子育てをしながら働く男性医療人の情報交換の場として開催している。定期的に子育て中の男性医療人の交流会・講演会・料理教室を行っており、今年度で 7 回目となる。実際に、育休を取得する男性医療人も年々増加している。男性の育休取得推進の為の情報提供や、男性の育児と仕事との両立における問題点あるいは解決策について話し合う場を設ける。

● 2. 相談窓口等に係る取り組み

２－①コーディネーターによる研修・復職支援

コーディネーターを配置し、女性医師等のキャリア支援のための相談、復職研修申し込みの受け付け及び復職受入調整を行う。

２－②キャリア相談窓口の開設

キャリアカウンセラーによるキャリア相談窓口を設け、医療人のキャリア相談に応じる。

●３. 勤務体制に係る取り組み

復帰を目指す女性医師等を対象としたオーダーメイドのキャリア支援制度として、現在の大学病院の医師定員数に含まれず､勤務時間を自由に設定できる｢女性医師等採用サポートコース」を設定し、常勤復帰ができるようサポートする。

●４. 診療体制に係る取り組み

復職支援プログラムの拡充

昨年度作成したキャリアサポートブックを配布し､利用状況を調査する。また､改定(第３版)に向けて、これまでに参加した県下医療機関および附属病院内において、プログラム未作成の医療機関・診療科や診療施設等に働きかけを行う。

●５. 保育に係る取り組み

５－①　院内保育園及び病児保育の情報提供

保育・病児保育に関わる情報提供、院内保育園の大学院生の利用ができるよう利用範囲の拡大を行う。

５－②　マタニティ白衣・マタニティスクラブの貸出し

出産前の女性医師への支援として、妊娠初期から臨月まで着用可能なマタニティ白衣の貸し出し行う。

●６. 復職支援に関わる取り組み

交流会等を通じた女性医療人の両立支援

各職種を対象とした交流会の場を設け、事前アンケート調査によって決定した妊娠・出産・育児に関すること、キャリア等のテーマについて、情報交換を行うとともに現場に不足している支援に関する情報を抽出する。交流会を通じて、モデルケースの発掘、モチベーションの上昇につながると考える。

●７．その他の取り組み

７－①キャリアパス相談会

進路や将来についての相談ができる、大分大学医学部医学科５年生女子学生と女性医師との交流会を行う。

７－②キャリア教育

臨床実習開始直前の医学科４年次対象とした『臨床実習入門総合医学」の一環であるこの授業は､『医師のキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶ』ことを目的としている。学生が卒業後のキャリア形成や医師になってからのワークライフバランスをロールモデルの話やグループワークを通じて考えられる講義を行う。

７－③女性医療人キャリア支援センター News　Letter の発行

上記活動に関するセンターの情報提供や活動報告を行う。

3 活動実績

（1）職場理解に係る取り組み

1 リーダー研修の開催

●日　時：2022 年 3 月 14 日（月）
●場　所：大分大学医学部大会議室
●参加者：大分大学医学部教授　42 名
●講　師：女性医療人キャリア支援センター　センター長
　　医学生物学　松浦　恵子教授

アンコンシャス・バイアスをテーマとして、リーダー研修会を開催しました。「アンコンシャス・バイアス (無意識の思い込み)」とは、女性にも男性にもあり、自分自身が気づかずに持つ無意識の思い込みや決めつけのことで、固定的性別役割分担意識と共にダイバーシティ推進を阻むものとして、近年注目を浴びています。まずはアンコンシャス・バイアスがあることを意識し、制御することを、個人、できれば組織レベルで習慣化・制度化し、男女双方の意識改革と理解の促進を図ることが重要です。

参考：＜アンコンシャス・バイアスチェックシート＞　内閣府男女共同参画局

□ 1. 仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い
□ 2. 親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ
□ 3. 女性に理系の進路 (学校・職業) は向いていない
□ 4. 男性は人前で泣くべきではない
□ 5. 女性には女性らしい感性があるものだ
□ 6. 男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ
□ 7. 組織のリーダーは男性の方が向いている
□ 8. 女性の上司には抵抗がある
□ 9. PTA には、女性が参加するべきだ
□ 10. 実の親、義理の親に関わらず、親の介護は女性がするべきだ
□ 11. 男性は結婚して家庭をもって一人前だ
□ 12. 家事・育児は女性がするべきだ
□ 13. 同程度の実力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ
□ 14. 共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ
□ 15. 女性は感情的になりやすい
□ 16. 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない
□ 17. 男性は仕事をして家計を支えるべきだ
□ 18. 女性は正規雇用にこだわらなくともよい
□ 19. 女性社員の昇格や管理職への登用のための特別な教育・訓練は必要ない
□ 20. 大きな商談や大事な交渉事は男性がやる方がいい
□ 21. 女性には高い学歴やキャリアは必要ない
□ 22. 事務作業などの簡単な仕事は女性がするべきだ
□ 23. 自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべきだ

2 パパの会（通称 PENGUINS）の開催

参加費 無料

うれしい 特典付

第7回 男性医療人パパの会 Penguins オンライン

zoom

仕事と家庭の両立に役立つ口コミ募集!!

仕事と家庭の両立に役立つ口コミや、おすすめの情報をシェアしませんか？
我が家のおすすめ情報等を教えてください！
グッドアイデアには表彰・景品があります♪
（当日参加できなくてもOK）

プログラム 1

「５年連続再度受けたい講義」選出の

ドクターXのミニ講座

「子育てから学ぶ レクチャーのコツ」

＊ドクターXは誰？当日のお楽しみ！

お役立ち情報コンテスト

地元ならでは？医療者ならでは？お役立ち情報をシェア

プログラム 2

㈱ビストロパパお子様用オリジナルエプロンの特典付

初心者対応！

パパ料理研究家 **滝村雅晴さんの**

お料理教室

オリジナルエプロンをつけて参加しよう!!

今夜の晩御飯、一緒に作りませんか？
気になるメニューは…

ほうれん草とニラたっぷりの水餃子とお稲荷餃子

なんと事前申し込みで、㈱ビストロパパお子様用オリジナルエプロンを前日までにプレゼント！！（数量限定）

＊当日参加できない方にも特典チャンスがあります
詳しくは下記のお知らせをご覧ください！

日 時

2/27(日)16:30開始（90分程度）

対 象 大分大学内教職員 学生

男女を問わず どなたでも 参加できます♫

お知らせ 仕事と家庭の両立に役立つ情報を事前に応募すると料理教室の配信のURLに加え、**豪華？商品**ががもらえるチャンスがあります。当日参加できないという方には後日配信用のURLをお知らせします。

お申込み・お問い合せ

女性医療人キャリア支援センター

内線 5715
外線 097-586-5715
carsupport@oita-u.ac.jp

第７回男性医療人パパの会（Penguins）

女性医療人キャリア支援センターは、女性支援に限った活動のみではなく、男女共に働きやすい職場で、共にワークライフバランスについて考えたい、という思いから、男性医療人パパの会（通称：ペンギンズ）を平成 27 年度よりスタートしました。例年は、大分大学狭間キャンパスで働く男性医療人が集まって、「育児の分担」や「有給取得」、「男性の育児休業」などのテーマでトークしていましたが、コロナ禍となった昨年度、初の試みでオンライン（Zoom）料理教室を開催しました。各家庭より参加する料理教室は、コロナ禍でも接触を気にすることなく開催でき、コミュニケーションも取れ、非常に好評であったため、今年度も同様の形式で開催することにしました。参加者はパパに限定せず、ママとでも、家族みんなででも、あるいはお一人でも大歓迎とし、広く呼びかけました。

当日は、14 家庭のキッチンから、講師の指導のもと、楽しく料理をする大人や子どもたちの姿を見ることができました。講師はパパ料理研究家の滝村雅治氏で、メニューは「ほうれん草とニラたっぷりの水餃子とお稲荷餃子」。会の中では、事前に参加者より集めた「仕事と家庭の両立に役立つ情報」を、紹介したり、表彰したりもしました。料理のスキルアップ、職場内や家族内のコミュニケーションに役立つ会となりました。

参加者の感想

◇夫婦と子供、家族で楽しめる企画で楽しかったです。家にいながら参加できて、そのまま夕飯にできるメニューで、負担がなく役立つ企画ありがとうございました。

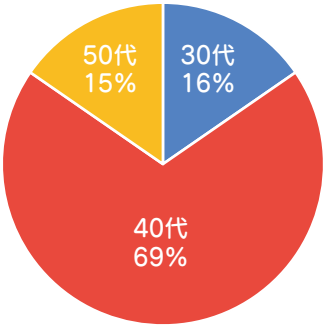
◇子供の成長時期をある程度分けて（0 ～ 1 歳、1 ～ 3 歳、幼稚園、小学校、中学校、高校など）父・母それぞれ経験者の目線で注意していたこと、仕事とのウエイトの置き具合、パパとして協力してほしいことなど意見を募るとかどうでしょうか。

◇大学病院のパパ医師が働きやすくするには教授の理解が不可欠かと思います。今回緒方先生や松浦先生が参加してくださいましたように、教授に持ち回りで一言いただけるだけでも、組織全体の意識改革に繋がるのではないかと思いました。（教授に一言いただくことのハードルが非常に高いことは重々承知しております。）

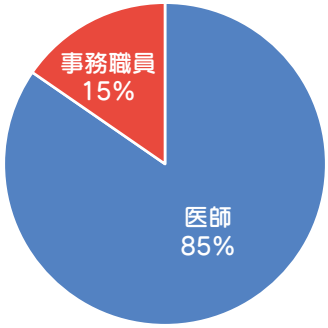
◇希望の企画ですが、今回のクッキング教室、娘が楽しかったと非常に喜んでいましたので、是非またオンラインでのクッキング教室を望みます。オンラインで他者に気兼ねしないことと、各ご家庭の様子がわかって参考になりました。中田先生をはじめご担当の皆様、本当にありがとうございました。

パパの会アンケートより

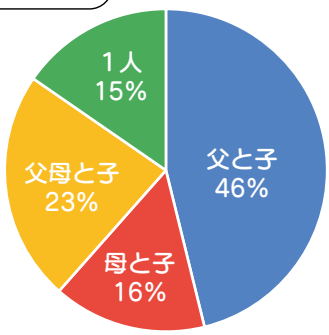
年　齢



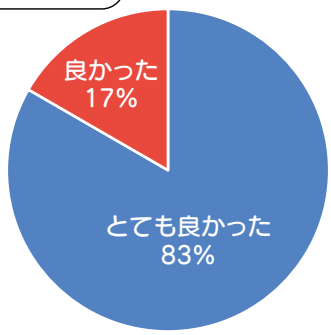
職　業



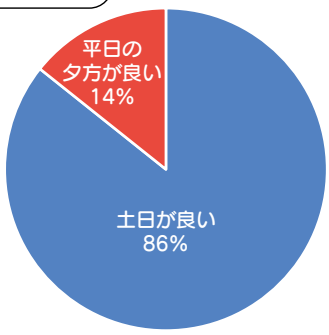
一緒に参加した人は？



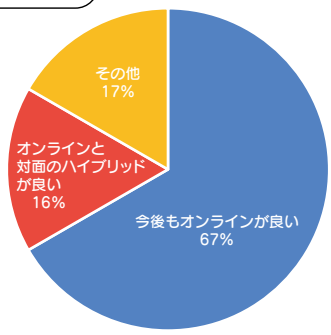
今回のパパの会について



開催日について



開催方法について



（2）相談窓口等に係る取り組み

1 コーディネータによる復職支援

2 キャリア相談窓口の開設

センターホームページ内に本事業のページを設け、メールでの問い合わせをできるようにしました。もちろん、支援センター職員への直接の面談も可能です。

令和３年度相談対応

＜内容＞

・女性医師専用当直室の利用方法について
・キャリアアップについて
・家庭と仕事の両立について
・職場環境について

CONTACT

以下のフォームにご記入のうえ、送信してください。
学外の方にもご利用いただけます。

ご不明な点や、お急ぎの際はお電話でご連絡ください。
TEL：097-586-5715(内線：5715)
受付時間：平日　9:00 ～ 17:00

お問い合わせ

内容 (必須)
◉ お問い合わせ　○ 来訪予定　○ ご意見　○ その他

所属 (必須)

お名前 (必須)

フリガナ (必須)

メールアドレス (必須)

確認のためにもう一度 (必須)

内線番号または電話番号 (必須)

お問い合わせ内容など　※来訪予約の方は、来訪希望日時・来訪目的をご記入ください

送信確認(必須)
☐ 内容を確認して送信する

送信

（3）勤務体制に係る取り組み

女性医師等採用サポートコース

大分大学医学部附属病院では、定員外の増員分として「女性医師等採用サポートコース」を設定し、職場復帰を目指す女性医師のために、勤務時間を柔軟に設定できるようにしました。

女性医師等採用サポートコース募集のお知らせ

大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センターでは、医師の臨床現場定着及び復帰支援を目的とした取り組みを進めています。令和３年度の復帰支援の取組みの一環として、医局の定員数外の非常勤としてフレキシブルに就労する女性医師の雇用が可能となりました。「出産・育児等で離職後、復帰を目指している方」、「臨床経験が少ないため経験を積んで臨床への復帰を目指している方」、「大分大学医学部附属病院に勤務されている女性医師で、将来的に常勤での勤務を目指し勤務時間を増加されたい方」を対象に、『女性医師等採用サポートコース』の募集をいたします。
ご希望の方は別紙エントリーシートをセンターまでご提出ください。

＜募集要項＞

○募集人数

若干名

○求める人材

大分大学医学部附属病院でご自身の専門性を生かし、非常勤の医師として勤務することを希望する者

○職務内容

ご自身の専門とされる診療科と相談の上、職務内容は決定
大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センターのイベント等運営への協力

○処遇

【身分】パートタイム医員
【保険】なし
【勤務日数・勤務時間】応相談（週４時間～週１９時間）
【給与】大学の規定による

○応募資格

復帰支援を望まれる女性医師、学内の育児をされている女性医師等

○出願書類

エントリーシート

○その他

本コースに採用された場合は、別途総務課人事係へ採用に必要な書類を提出していただきます。
大分大学医学部附属病院にパート勤務中で本コースを希望される方はセンターまでお問い合わせください。

【お問合せ】
大分大学医学部附属病院
女性医療人キャリア支援センター
TEL:5715 または 097-586-5715
mail:carsupport@oita-u.ac.jp

女性医師等採用サポートコース

エントリーシート

申出年月日　令和　　年　　月　　日

（ふりがな） 氏　名			
連絡先	電話番号：		
	メールアドレス：		
	希望する連絡方法　および　連絡の時間帯：		
入局先		卒業大学・ 卒業年度	
専門医/認定医の有無	☐ 有　名称（　　）☐ 無		
大学院所属の有無	☐ 有　☐ 無	学位の有無	☐ 有　☐ 無
現在までの経歴 （医学部卒業以降） ※出産日および産休・育休 取得期間もご記入ください ※継続利用の方は省略可			
復帰希望診療科	科		
復帰希望年月日	令和　　年　　月　　日　より勤務開始		
希望する勤務態様	週当たりの勤務時間　0.00　時間 ※下記勤務時間を入力すると自動計算します		
曜日別希望勤務 （休憩時間を除いて記入）	自動計算しますので、〇〇：〇〇の形式で入力して下さい。 ↓　例）8:30～12:00，13:00～17:15　※休憩を除いて記入 月　～　，　～　（ 0:00 ） 火　～　，　～　（ 0:00 ） 水　～　，　～　（ 0:00 ） 木　～　，　～　（ 0:00 ） 金　～　，　～　（ 0:00 ） total　（ 0:00 ） （補足）6時間以上勤務の方は必ず休憩を取って下さい。		
女性医師等採用サポートコースによる採用が必要な理由			
受入先	診療科名： 所属長名：　　印		

※なお、サポートコースを利用される先生方は、女性医療人キャリア支援センターの活動にご協力いただきます。

（4）診療体制に係る取り組み

復職支援プログラムの作成

女性医師等が育児休業や離職等から臨床の現場に復帰する時は、キャリア継続や復帰後の働き方等に不安を感じるものです。どのような手順で復帰できるのか、復帰支援プログラムをあらかじめ提示しておくことで不安が軽減され復帰がスムーズになると考えられます。そこで、診療科ごとの復帰支援プログラムを統一された様式で作成し、共有できるようしました。この復帰支援プログラムは、各診療科の標準のプログラムとして復帰を希望される女性医師等に合わせたオーダーメードプログラムの元になります。

記入例

臨床復帰のためのプログラムになります。
復帰開始から①～③の期間及び期間の区切りは自由に設定していただけます。また様式も、合わせてご変更いただけます。
作成いただいたプログラムは、標準プログラムとし復帰希望者にあわせて、オーダーメード化をしていただくようになります。

別紙2

〔 消化器センター内科　復帰支援プログラム〕

復帰支援プログラムの経過月 →

	業務大項目	個別項目	①プログラム開始から1カ月 ○＝実施 ×未実施	①プログラム開始から1カ月 指導下or独立	②2–12カ月 (　)カ月～(　)カ月 ○＝実施 ×未実施	②2–12カ月 (　)カ月～(　)カ月 指導下or独立	②2–12カ月 (4)カ月～(12)カ月 ○＝実施 ×未実施	②2–12カ月 (4)カ月～(12)カ月 指導下or独立	③1年以後 ○＝実施 ×未実施	③1年以後 指導下／独立
全科共通	①外来	・健康診断	（○）	独立	（○）	独立			（○）	独立
		・一般外来	（○）	独立	（○）	独立			（○）	独立
		・科別専門	（○）	指導下	（○）	独立			（○）	独立
	②病棟	・入院患者受け持ち	（×）		（×）		（×）		（○）	指導下
		・救急対応（日勤）	（×）		（×）		（○）	独立	（○）	独立
科別プログラム	科別プログラム									
	内視鏡検査	上部消化管内視鏡	（○）	指導下	（○）	独立			（○）	独立
		下部消化管内視鏡	（×）		（○）	指導下			（○）	独立
		ERCP	（×）		（×）		（○）	指導下	（○）	指導下
		超音波内視鏡	（×）		（×）		（○）	指導下	（○）	指導下
	内視鏡治療	食道静脈瘤結紮・硬化療法	（×）		（×）				（○）	指導下
		粘膜切除（ESD）	（×）		（×）				（○）	指導下
		大腸ポリペクトミー	（×）		（○）	指導下			（○）	独立
	肝疾患処置	肝生検	（×）		（○）	指導下			（○）	独立
		RFA	（×）		（×）				（○）	指導下

検査名や処置等をご記入ください

業務大項目で行う内容をご記入ください

該当月に個別項目を実施される場合は○、実施されない場合×
○をつけた項目には、指導下か独立かの記入をお願いいたします。

（5）保育に係る取り組み

1　院内保育園及び病児保育の情報提供

学内の保育サービスについての情報を提供しています。

挾間キャンパス敷地内に、０歳児～６歳児までが対象のなかよし保育園と、病児保育室ひだまりが設置されており、教職員の仕事と子育の両立を支援しています。センターホームページに保育園のリンクがあり、入園や利用に必要な情報収集にお役立ていただいております。

院内保育「なかよし」

平成19年度７月開室

定　員：45名

対象児：０歳から小学校就学前までの乳幼児

開室日：月曜日～土曜日

時　間：７時～20時
（基本時間　７時 ～ 19時）
（延長時間　19時 ～ 20時）
（終夜保育　20時 ～ 翌７時）※水曜日のみ

利用者：大分大学教職員が保護者であること。
※人事異動等により、他の医療機関等に採用となった間の利用や、他の幼稚園、保育園等に通う５才までの乳幼児について、長期休園（春、夏、冬休み）期間中に大分大学なかよし保育園での保育を希望する場合の利用も認められる。

インターホンで来客を確認します

園庭　全景

春は桜がきれいです

玄関を入ると子どもたちの作品が迎えてくれます

子どもたちのかわいらしい靴が並んでいます

壁の上部は透明素材の窓になり全体が見渡せます

小さな赤ちゃんたちのお部屋です

病児保育「ひだまり」

平成 25 年６月開室

定　員：４名

隔離室：２部屋

対象児：大分大学職員・大学院生・学部生が保護者である生後６ヶ月～小学校３年生までの小児

開室日：月曜日～金曜日

時　間：7 時 30 分～ 17 時 30 分

利用者：教職員・大学院生
　　学部生（条件有）

担　当：看護師・保育士

その他：原則事前診断が必要

2 マタニティ白衣・スクラブの貸出

出産前の女性医師支援として、妊娠初期から臨月まで着用可能なマタニティ白衣・スクラブの無料貸出を行いました。

マタニティ白衣貸出　利用申込書

マタニティ白衣貸出しのお申し込みを頂きましてありがとうございます。
必要事項をご記入のうえ、学内便、メールまたは FAX にてご提出ください。

申込年月日	
ふりがな 氏名	
住所	〒
電話番号	＊産休取得後も連絡が取れる電話番号をご記入ください
メールアドレス	
出産予定日	年　月　日予定
利用予定期間	年　月　日　～　年　月　日まで （＊返却予定日となります）
勤務先診療科名	
希望サイズ	白　衣：　Sサイズ　・　Mサイズ スクラブ：　Mサイズ　・　Lサイズ

＊ご利用期間終了後はクリーニングをしてご返却をお願いいたします
＊ご利用期間終了後は 2 週間以内に貸出し窓妻でお持ちいただくか、下記までお送りください。
（送料はご負担下さい）
＊また、貸出期間を延長される場合は、お早めに貸出窓口までご連絡ください。

【連絡先・貸出窓口】
〒879-5593　大分県由布市医大ヶ丘 1 丁目 1 番地
大分大学医医学部附属病院　女性医療人キャリア支援センター
Tel：097-586-5715　Fax:097-586-62　Mail:carsupport@oita-u.ac.jp

利用者の声

〇利用者：５名

◆白衣だけでなく、スクラブの貸出もあるのは、ありがたいです。

◆昨年２月の）キャリアパス相談会の際に、このサービスを知り、第２子の時には利用しようと思っていました。

◆産休に入る前日の１日でしたが、借りることができてよかったです。

（6）復職支援に係る取り組み

「女性医師交流会」の開催

女性医師交流会のお知らせ

女性医師の声を少しでも拾い上げることができ、診療科が
違っても、お話するきっかけができればと思い、この会は毎
年開催されています。
今年もひっそり開けていますので、ぜひお立ち寄りください。

開催日時：2022年3月8日（火）
17時30分～ 19時くらいまで
場所：福利厚生棟1階　教職員休養室

途中参加、途中退室OKです

感染対策を講じて対面で行います。
フリートークタイムです。
愚痴でも、雑談でも、真剣な進路相談でも。
困ったこと、聞いてほしいことが、ある人もない人も、
お気軽に、ちょこっとお立ち寄りください。
疲れた体に癒されるおみやげ（スイーツ）を用意しています。

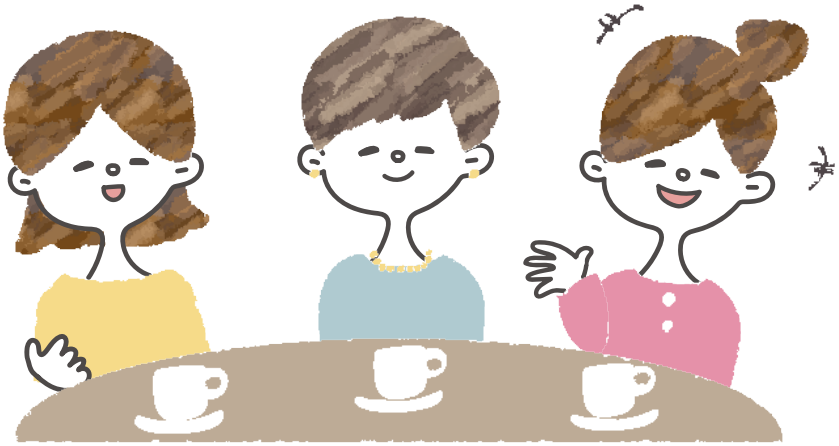
おみやげ準備の関係上、
お申し込みは3月1日（火）
までにお願いいたします!

<お問い合わせ・お申込み>
大分大学医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター
TEL:内線 5715(または 097-586-5715) 月~金 8:30 ~ 17:15
Eメール:carsupport@oita-u.ac.jp

●女性医師交流会参加者：12 名

女性医師等のキャリア支援や復職研修の相談窓口となる、コーディネータを配置しました。コーディネーターが橋渡しとなって、女性医師が交流できるように、2022 年 3 月 8 日、女性医師交流会を開催しました（キャリアパス相談会と同時開催）。このような会をきっかけに、年代、診療科を超えて、新たな繋がりができ、ロールモデルの発見にもつながります。また、現場の声を拾い上げ、問題抽出や現状把握を行うこともできると考えます。

消化器内科、呼吸器内科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、内分泌糖尿病内科、総合診療科、循環器内科、医学生物学と様々な診療科、様々な年代のドクターが集まりました。ライフステージに応じた悩み・・・、まだ存在する女性であるがゆえの働きにくさ・・・普段は口にしにくいことも話すことで少しスッキリするものです。すぐに解決しなくても、今後少しでも職場環境を良くする一歩になるかもしれない。女性医療人キャリア支援センターではそのような場を今後とも提供したいと思います。



●女性医師交流会、参加者アンケートより

＜開催時期について＞

1．良かった	12
2．別の時期の方が良い	0

＜開始時間について＞

1．良かった	11
2．もっと早い方が良い	1
3．もっと遅い方が良い	0

＜オンライン開催と対面開催について＞

1．対面開催が良い	11
2．オンライン開催が良い	0
3．どちらかで参加できるハイブリッド式が良い	1

＜またこのような会があれば参加していただけますか？＞

1．参加する	11
2．都合が合えば参加する	1
3．参加しない	0

＜参加された感想をお聞かせください＞

・女性の妊娠・出産・キャリアについて聞けて良かった。
・他の先生方のキャリアの話が聞けて楽しかった。
・いろいろなキャリアの先生の話を聴くことができてとても参考になった
・女性医師の持つ課題がわかった。
・この様な活動をする必要のない、男女分け隔てなくみんなで子育て、仕事、様々な境遇を共有することができる世の中になってほしい。

（7）その他の取り組み

1 キャリアパス相談会

キャリアパス相談会

for女子学生（5年生）

どこで働こう？診療科の選択は？大学院？留学？出産、子育て？・・・・
たくさんの選択肢の中から、これから色々なものを選び取っていく皆さん。
先輩女性医師と少しお話してみませんか？
背中を押してもらえたり、別の視点を得たりすることができるかもしれません。

【参加予定女性ドクター】
遠藤美月先生（消化器内科）、川崎ゆかり先生（脳神経外科）、
富本あけみ先生（内分泌糖尿病内科／アルメイダ病院勤務）
中川幹子先生・児玉　望先生・小河尚子先生・三好美帆先生（循環器内科）、
立山香織先生・高倉苑佳先生（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）、
山本恭子先生（総合内科・総合診療科）、 松浦恵子先生（医学生物学）

【日時】2022年3月8日（火曜）
17時30～1時間半程度
（途中参加、途中退室かまいません）
【場所】福利厚生棟1階
教職員休養室

【お問い合わせはこちら】
大分大学医学部附属病院
女性医療人キャリア支援センター
TEL:内線 5715
(または 097-586-5715)
月~金 8:30 ~ 17:15
Eメール:carsupport@oita-u.ac.jp

●開催日：2022 年 3 月 8 日（火）
●参加者：女性医師　　12 名
　　５年生女子学生　14 名
●プログラム
1. 参加者自己紹介
2. フリートーク＆質問
①研修先の選び方について（県内 / 県外 / 大学 / たすきがけ）
②結婚、出産のタイミング
③子育てと仕事の両立

＜学生さんからの質問内容＞

・初期研修の間に子供を産みたいと考えているが、2 年間の中でタイミングがいい時期などがあるか。
・大分県内の市中病院（大学以外）で、初期研修中の出産に否定的な病院、あるいは認めてくれる病院があったら教えてほしい。
・初期研修を続けながら出産した女医さんがいればお話を聞きたい。
・育休は取られましたか？
・実家が遠方の場合、子育てとの両立は難しいのか？また、そのような先生はどのように育児と仕事を両立させていますか？

＜５年生女子学生より：キャリアパス相談会の感想＞

・いろいろな先生の結婚・妊娠について聞くことができて良かったです。
・まだ結婚・出産については具体的には考えていませんが、
・キャリアを積むために様々な方法があることを知れて安心しました。
・先生方のキャリアパスを聴くことができてとても良かったです。
・普段から不安に思うことが多かったので、お話を聴くことで自分自身の
・これからの在り方を考える良い機会になりました。
・様々なキャリアの先生方のお話が聞けてとても良い機会でした。
・初期研修先やその後のキャリアを考えるうえで参考になりました。
・県外出身で大分に残る場合、不安がありましたが、今回の話でいろいろサポートを受けつつ出産、子育てができることがわかり、前向きに考えられるようになりました。
・いろいろな話を聴くことができてとても有意義な時間でした。
・キャリアアップについてもっと知りたいです。
・皆、優しい先生ばかりで楽しかったです。
・先生方が話しやすい雰囲気を作ってくれたので良かったです。
・先生方がいろいろな前例を作って下さったので「何とかできる」という勇気が出ました。

2 キャリア教育

「医師のキャリアとワークライフバランスを考える」

2021 年 11 月 26 日、医学部医学科４年生へキャリア教育を行いました。キャリア教育とは、様々な選択肢のある岐路に立たされた時に、自らのキャリア形成や、ライフイベントとの兼ね合いをどのように選択していくのかを主体的に考えてもらうことを目的としています。

この講義は間もなく臨床実習が始まる４年次を対象に『医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶ』ことをテーマに６年前からスタートしました。

●キャリア教育タイムテーブル

時間	内容	担当
9:00 ～	講義説明 アンケート、グループワーク説明	医学教育センター　中川幹子先生 医学生物学　松浦恵子先生
9:15 ～	キャリア教育①②	消化器・小児外科　平下禎二郎先生 消化器内科　平下有香先生
9:55 ～	キャリア教育③	循環器内科　米津圭佑先生
10:15 ～	ワークライフバランスミニ講座	腎臓内科　中田健先生
10:25	移動	校舎講義棟１Ｆ チュートリアル室へ
10:30 ～	学生によるグループ討論	８～９人のグループに分かれ、今後起こりうるキーワードを基に各グループごとにシナリオを作成。問題点の解決策を討論する。
12:00 ～	休憩	
13:00 ～	キャリア教育④	血液内科　高野久仁子先生
13:20 ～	キャリア教育⑤	心臓血管外科　宮本伸二先生
13:40 ～	学生による発表会	司会　耳鼻咽喉科　立山香織先生 各グループ、午前中に作成したシナリオ及び解決策を３分のロールプレイで発表
14:50 ～	講評・総括	医学生物学　松浦恵子先生 医学教育センター　中川幹子先生 腎臓内科　中田健先生
15:00	終了	

プログラムは、先輩医師のアドバイスや体験談を聞かせていただくキャリア講義と、与えられたテーマをもとにシナリオを作成し、ロールプレイを行うグループワークで構成されています。昨年はコロナ流行波と重なり、オンラインで行いましたが、今年はコロナが落ち着いていた時期だったので対面で行うことができました。

先輩医師からのメッセージ

『夫婦で協力して子育てもキャリア形成も』

消化器・小児外科　平下　禎二郎　医師
消化器内科　　平下　有香　医師

キャリア教育では初めての試み、ご夫婦でご講演いただきました。

ご夫婦ならではの軽妙なやり取りでそれぞれのキャリアパスやワークライフバランスの実践について紹介され、そして学生への将来のキャリアパスについて「現在の臨床研修制度では自由な研修が可能となり自分なりの成長ができるが、その分自己責任が求められる。自分の性格や特徴を考えて、自分の成長する姿をイメージしてふさわしい場所、やりたいと思ったことを続けていくことが大事」と話されました。さらに『勝手に質疑応答』として「結婚・出産はキャリアに影響するか」「夫婦での留学はできるのか」についてお二人の経験に基づいたアドバイスをいただきました。夫婦での共同研究や名を連ねた英語論文もかっこいい！医学科カップルにも眩しく映ったことでしょう。

また昨年留学先のニューヨークにご家族で行かれた際に直面したコロナ禍や大統領選挙、目の当たりにした人種差別の抗議デモの様子などの貴重なお話もしていただきました。

『育児休業（育休）ではなく育児勤務（育勤）』

循環器内科（高度救命救急センター）　米津　圭佑　医師

５月に第１子と第２子（双子）が生まれ、２児の父となった米津先生。１人でも大変なのに新生児が２人となると、夫婦の協力は欠かせません。共働きの奥様の負担を少しでも減らした

いと、上司の理解もあり、男性医師として珍しい１ヶ月の育休を取得されました。

育休のメリットとして、子どもとの大事な時間の共有により父親としての自覚が芽生えたこと、周囲の人への感謝の気持ちが生まれたこと、オンオフのメリハリがつき仕事時間を有効に活用できるようになったこと、をあげられました。デメリットとしては、収入の減少、皆が取得できない不平等感があること、制度として普及していない点を指摘しました。「育休は育児休業ではなく育児勤務（育勤）」との言葉もあり、社会として子育てを支援する体制が必要また「自分が取得したことで続いて他の先生にも取得してほしい。そのためのサポートも行いたい」と話されました。

『人生の転機に応じたギアチェンジを』

血液内科　高野　久仁子　医師

「私がキャリア形成の過程において考えていたこと、感じたことをお話しすることで将来に役立てていただきたい」と登場された高野先生。血液内科のお仕事について、国内留学で学んだこと、ご主人との出会い、２児の母親になってみてどのような毎日か､赤裸々にお話ししてくださいました。「こんな医師になりたいという思いを大切にしてもらい、実際に飛び込んだ時に感じたこと、素直にやりたいことを自分自身で選択してほしい。人生の転機に応じて理想像を柔軟にアップデートしていくことも重要。全力でも難しいと思うときはギアチェンジをしてもいいと思っている。」と医学生へメッセージをおくりました。最後に「男女問わず仲間の選択を尊重し、みんながhappyに働き続けられることを願っています。」と締め括られました。

『臨床も研究も興味を持ってleap before you look（見る前に飛べ）！』

心臓血管外科　宮本　伸二　教授

佐伯市のご出身で、出身大学も主な勤務地も大分県ということもあり、「地産地消心臓血管外科医」を名乗る宮本先生は、ご自身のキャリアを、趣味の範疇を超えたイラストを活用したスライドで紹介されました。実は、宮本先生は医療雑誌での３コマ漫画連載や、自らイラ

ストを書いた術書を出版されたこともあるプロのイラストレーターでもあるのです。

医局に入ってから教授になるまでの間、術中心臓を冷却するための氷かきから始まった下積み時代から、初の執刀で奥様がお赤飯を炊いてくれた心温まるお話、コネもお金もあてもないところからスタートした留学の話、その時書いた英語の履歴書の失敗エピソードなどで講義室は笑いに包まれました。

また、大学の医師の悩みの種である英語論文や科研費も、可愛いヤギのイラストなどを入れることで？見事に何本もアクセプトされる宮本教授のお話を聞くと、論文作成や研究費申請書類の作成も楽しくできるんじゃないか！？と思えちゃいました。

最後にみんなに「何事にも興味を持って当たって砕けるくらいの精神でいってほしい」とメッセージを送られました。

【ワークライフバランスミニ講座】

腎臓内科　中田 健先生（女性医療人キャリア支援センター副センター長）によるワークライフバランスミニ講座では、過労死や過度の連続勤務による医療事故などをきっかけに働き方の見直しや医療安全につながるチーム医療の重要性など、時代の変遷によるキャリアの考え方の変化やワークライフバランスが大切とされる理由についての話がありました。

さらに男性医師の育休取得状況について中田先生が発起人となっている男性医療人パパの会についても紹介されました。

【学生によるグループ討論】

学生は各班でケーススタディを行い、ロールプレイをしました。与えられた短いキーワードをもとに想像力を働かせてシナリオを作り、妻、夫、子ども、上司、実家の親などの役割を決めて演じました。さまざまな立場で､いろいろな考え方があることを学ぶきっかけに。さらに、男性の育児休暇や、病児保育に関する情報収集を行い、社会の制度についても触れることができました。

＜キーワード集（抜粋）＞

キーワード１：研修医の時に結婚・出産した若い医師同士の夫婦。

キーワード２：夫婦共働き、２歳の子供の朝の急な発熱。二人とも県外出身。
キーワード３：夫が、講演会、当直、学会、研修医との飲み会など連日不在。
子供は１歳、３歳。妻はくたくた。
キーワード４：妻が上司より海外留学を勧められた。
キーワード５：夫は単身赴任中。国際学会で発表予定。預ける予定だった母が入院。
キーワード６：一般企業に勤める夫と結婚した女性医師。育休から復帰した。

●学生によるロールプレイの様子

3 女性医療人キャリア支援センター News Letter の発行

適宜活動の様子をニュースレターにまとめ、配布、ホームページに公開することで広報活動を行いました。

News Letter Vol. 23

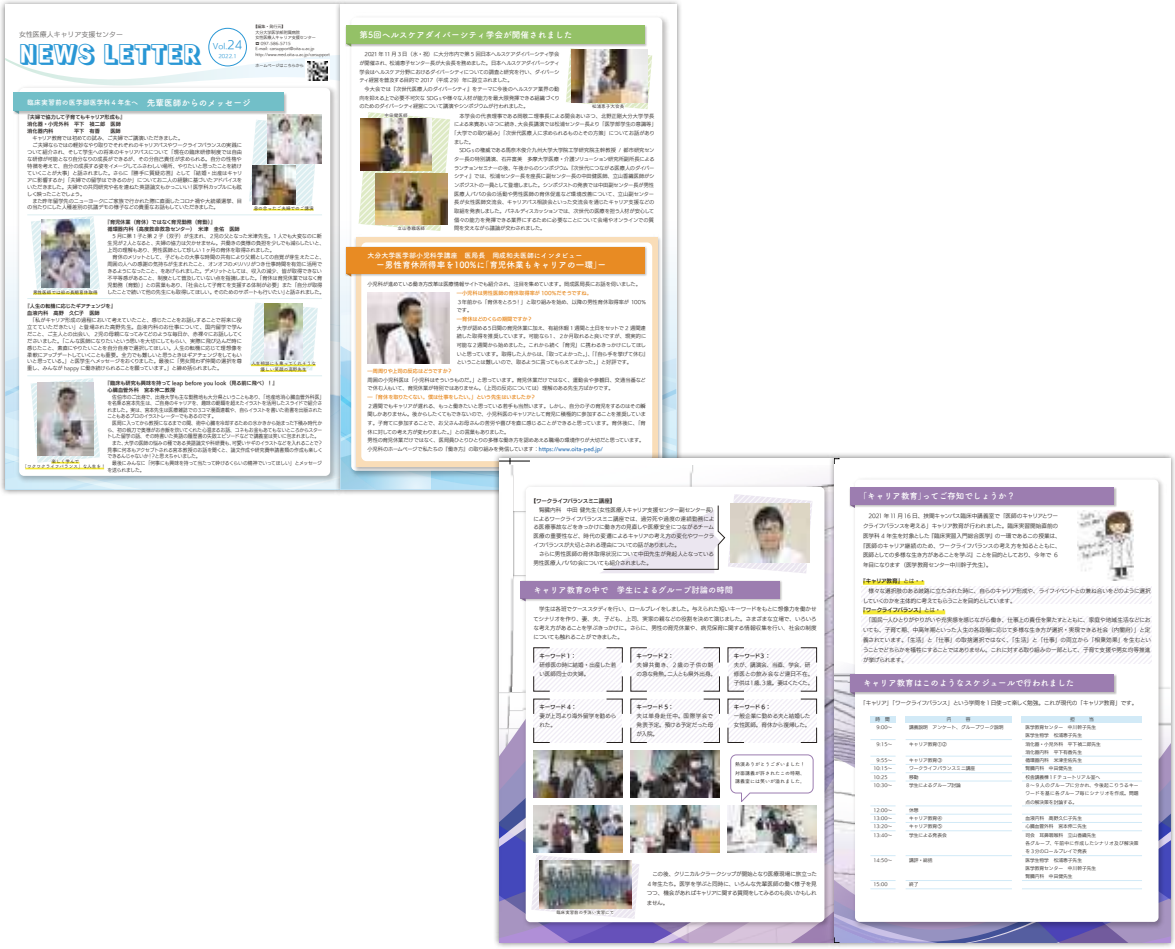
コンテンツ

・厚生労働省　令和２年度女性医療職等の働き方支援事業に採択
・令和２年度版　大分県医師キャリアサポートブック作成
・２月～３月の活動報告
　（令和２年度女性医師交流会、男性医療人パパの会、キャリアパス相談会、リーダ研修会）
・男性育休取得者インタビュー
・マタニティ白衣貸出サービスのお知らせ

News Letter Vol. 24

コンテンツ

・キャリア教育の紹介
・ダイバーシティ学会
・小児科医局長岡成和夫医師へインタビュー「育児休業もキャリアの一環」



4 女性医療人キャリア支援センター概要と運営体制

センター概要

医療現場が働きやすく、やりがいのある環境であることが医療の質の向上にはとても重要なことです。出産・育児、介護といった個人のライフイベントに関わらず、現場でのキャリアを継続するためには、多様な働き方が求められていますが、医療人の長時間労働や過重労働などの課題がまだまだあり、柔軟な働き方を模索している状況です。

こうした中、当センターではこれまで取り組んできた復職支援、キャリアアップ支援を充実させ多様な働き方への理解を広めるとともに、医療人の復職支援に力を入れて参りました。今年度、厚生労働省「令和２年度女性医療職等の働き方支援事業」の委託を受け、本事業を実施するための構築と各機関との連携により地域での課題の抽出、効果的支援を探りました。

センター運営委員

所属・職名	氏　　名	備　　考
医学生物学　教授	松浦　恵子	センター長
腎臓内科　病院特任助教	中田　　健	副センター長
耳鼻咽喉科・頭頸部外科　助教	立山　香織	副センター長
医学教育センター　教授	中川　幹子	
地域医療学センター　教授	宮崎　英士	
薬剤部長	伊東　弘樹	
看護部長	冨永志津代	
医療技術部長	吉田　幸人	
医学・病院事務部長	安部功一郎	
総務課長	牧　　尚宣	
経営管理課長	瀧口　節生	
医学教育センター	山本　恭子	

厚生労働省　令和３年度

女性医療職等の働き方支援事業実施報告書

令和４年３月発行

発行元　大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センター
〒 879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘１丁目１番地
Tel：097-586-5715
Mail：carsupport@oita-u.ac.jp

（無断複写・転写を禁じます）